

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震 活動報告

報告年月日：2024年3月15日(金)

活動隊員：網木政江

1. 活動日時

2024年3月11日(月)12時～3月14日(木)12時

2. 活動場所

珠洲市立大谷小中学校(石川県珠洲市大谷町1字78番地)

3. 石川県珠洲市の被害状況(3月12日14時点 石川県庁情報)

人的被害：死者103人(うち災害関連死6人)、負傷者：重傷47人、軽傷202人

住家被害：計8,676棟(全壊2,832棟、半壊2,276棟、一部損壊3,568棟)

非住家被害：3,690棟

4. 避難所の状況

【避難者数および一時帰宅者等の数】 避難者数に一時帰宅者は含まず

3月11日(月) 42人、18世帯、卒業式関係者・一時帰宅者19人

3月12日(火) 42人、18世帯、卒業式関係者・一時帰宅者19人

3月13日(水) 37人、18世帯、一時帰宅者5人

3月14日(木) 33人、18世帯、一時帰宅者0人(9時時点)

【避難所運営】

避難所運営体制は変更なし。千葉県からの行政職員2名の交代と当学会隊員の活動入りが重なったが、各団体で引継ぎが行われスムーズに活動を開始できている。3/12の卒業式に向け、会場設営は週末にほぼ完了していたが、卒業式関係者の宿泊場所の準備・後片付け、地区住民等多数の訪問があったため、避難所の運営は一時的に多忙となった。しかし、学校行事ということもあり、地域ボランティアや卒業式関係者(転居者、卒業生、NPO 法人体験型安全教育支援機構)により、大勢の食事の準備等、協力的に行われていた。13日以降は避難者数35名前後となっており、天気の良い日中はほとんどの方が仕事や家の片付け作業等で不在である。その他、罹災証明書交付手続きや家の片付け作業のため短期間宿泊利用をする一時帰宅者の出入りが数名ずつある。避難所運営スタッフも仕事で不在にされることがあり、避難所の状況をみながら両立されている様子がうかがえる。避難所の運営としては、ボランティアの人数が少なくなっていることもあり、他の避難所の情報を得ながら、縮小化を視野に入れられている状況である。

【避難所の生活状況】

避難所エリアは、卒業式後、体育館ステージ側の前1/4を運動スペースとして卓球台2台を設置した。また、1.5階に使用していない寝具を置き、併せて一時帰宅者の宿泊場所とした。今回、卒業式関係者の宿泊場所として校舎2階の教室を使用した。現在感染者もいないため、避難者の居住スペース

は基本的に体育館 1 階のみとなっている。

ライフラインは、依然として上下水が未復旧（大谷地区の通水予定は 4 月中旬～5 月下旬の予定）のため、飲料用にはペットボトルの水、生活用水には自衛隊による給水（1 回/2 日、4t）、山水や雨水を貯水槽やタンクに貯水し使用している。卒業式の関係で水の使用量が増えたこともあり、避難所運営スタッフが臨時に山水を汲みに行かれていた。節水のため、前任者が二槽式洗濯機 2 台のうち 1 台を全自動式に変更、設置したが、水の減り方は早く、適宜予備タンクからの追加が必要である。

トイレは、体育館入口に近い位置に仮設洋式トイレが 4 基あり、各トイレに雨よけ用の軒もあるため、雨天時でも傘をささずに利用できる。トイレ用スリッパへの履き替えや定期的清掃により衛生は保たれ、臭気も気にならない程度である。排泄物の回収は週 1 回となっているが、水と同様、利用者が増えたため汲み取り式 2 基の汚水槽がいっぱいとなり、担当者から回収を依頼した。屋内の多目的トイレ（ビニール袋使用）を使用する人はほとんどおらず、便器の横に設置しているラップオンは全く使用されていない。

入浴に関しては、体育館横の中庭に WOTA 製シャワールームと五右衛門風呂が各 1 基設置されており、予約制で使用できるようになっている。活動期間中、五右衛門風呂の使用はなし。シャワー装置の循環フィルター交換等は千葉県行政職員により定期的に行われている。介助が必要な方はいないが、一時帰宅者等の初回使用者に使用方法の説明が必要なこともある。また、他地区に設置されている自衛隊の入浴支援利用者も 1 名おられ、社会福祉協議会の送迎バスを予約し行っている。

食事は外部支援団体の継続的な支援があったが、3/18 で終了となる。単発的な外部支援は時々入る予定である。今後、食事に関しては、珠洲市の方で、お弁当やレトルト食品の配布へ移行することになっており、避難所には、保管用冷蔵庫 2 台と電子レンジ 2 台が設置される予定である。

5. 支援活動の実際

卒業式により施設利用者が増えたため、清掃、消毒、換気などの環境整備を運営スタッフと一緒に小まめに行い、感染予防対策に留意して衛生管理に努めた。式典前日には、関係者宿泊用の教室に寝具（二次避難所に行かれた方が使っていたもの）を準備し、終了後は使用していない寝具を全て体育館 1.5 階に移動、一時帰宅者が宿泊時使用できるように、粘着ロールテープで埃を除去、枕カバーやタオル類は洗濯、汚れの著しい毛布は廃棄として分別し整理した。

健康に関する支援としては、継続フォローしている降圧剤服用中の方の血圧測定、下肢の観察、弾性ストッキング着用状態の確認および着用方法の指導、足浴を実施した。また、これまで清潔に関し介入が難しかった方でもあったため、コミュニケーションや健康観察を通じ関係性を構築した上で、口腔ケア、マスク交換、更衣、入浴のセルフケアを促した。促す際には、着替えがあるか、洗濯ができるか、歯ブラシセットがあるかなど、困っていることがないか確認するとともに自尊心を大事に関わった。結果、支援物資の下着を渡した翌朝には自ら更衣をされていたり、3 日目には「言われる前に（歯磨き）やったわ」と、少しずつ行動変容がみられた。

その他、マスク紐の圧迫で耳介上部に発赤を認める方の観察と軟膏塗布を継続して行った。2 名ほど鼻水の症状のある方から風邪薬の希望があり、他の症状や服用中の薬について確認後渡した。発熱や症状悪化はみられなかった。避難所運営スタッフにも、卒業式が終わりひと段落したときに労いの声かけをし、血圧測定と、一部の方ではあったが肩から背中へのマッサージを実施した。

保健師チームの健康相談は、3/8 日より週 3 回（月・水・金）のペースで始まっている。3/13（水）

は学校関係者にも案内をしたが利用者はいなかった。実施頻度について保健師チームから相談があり、避難所リーダーを含め協議した結果、当学会が救護班として常駐しているため、次週より週1回水曜日のみに変更することになった。避難所リーダーから情報をいただいていた気になる在宅避難者2名は、すでに保健師チームの方でフォローされていることを確認し、情報共有を行った。

罹災証明の手続きのための一時帰宅し、現在、金沢市で息子さんと一緒に暮らしている高齢女性に声かけをした際、健康面の話から今の気持ちについて話をしてくださった。「亡夫が残した店と家があるので戻りたいが一人で生活再建していくことは難しい。家庭のある娘には頼れず、息子に頼るしかないが、一緒に暮らすことをどう思っているかわからない。今日家に行って何とか仏様を見つけて包んで持ってきた。冷蔵庫も倒れたままで、手をつけられなかつた。ここ（大谷）にくるとほんと辛い」と語られ、涙された。息子さんは、母親のことを気にかけておられ、「何をするにも罹災証明がないことには始まらないから」と自分が動くしかないといった様子である。金沢から時間をかけて来ても、窓口で待たされ、さらに改めて本申請に来なくてはならずストレスを感じておられた。

6. 支援を通しての所感と課題

卒業式を機に3/11～12は、避難所および在宅の地区住民、二次避難先に行っている人、転居した人、卒業生、先生らが集い、卒業生2名を祝福するとともに、元気な声と笑顔にあふれていた。大人は近況報告をし合いながら情報交換したり、子どもたちは年齢に関係なくじゃれあって遊んだり、時間を忘れ、楽しく過ごされていた。今回、卒業式や卒業パーティーを地域のいろんな人が協力して作り上げる様子や交流の様子を拝見し、大谷地区住民の強い結束力と、大家族のようなとても温かい雰囲気を感じることができた。また、活動を通して一時帰宅者や転居者から伺った話からも、地域に愛着があることが伝わってきた。

発災後3ヶ月目となり、現在、珠洲市内の避難所の縮小の動きが出ている。これに伴い、大谷小中学校避難所も、この避難所の意義や人的資源を考慮しつつ、どのように縮小していくかが課題である。避難所縮小の一方で、仮設住宅の建設は遅れており、大谷地区は大谷小中学校グラウンドへの建設が決まった段階である。完成が遅い分、現在の不自由な生活が続くことになるが、逆にその時間を地域コミュニティの再構築をどのようにしていくか検討する時間に充てることもできる。今後、仮設住宅の入居決定後の人間関係の悪化やコミュニティ分断等の問題も起こり得るため、コミュニティ再構築に向けた支援も必要と思われる。

7. 参考写真



写真1 避難所での卒業式の様子



写真2 卒業式後のレイアウト

